産業建設常任委員会

工藤直道（委員長）、髙橋喜代春（副委員長）、
北口和男、大和田順一、松浦博幸、小笠原壽男、大森力男

温泉と健康を融合し観光客誘致

・期日……8月23日～24日
・研修先……エナーテック㈱（山形市）、さとみの漬物講座企業組合（山形市）、山形県上山（かみのやま）市など
・内容……誘致企業の事業活動、気候性地形療法について、など

◎誘致企業の事業活動

平成4年3月創業のエナーテック㈱（本社＝山形市）は、18年2月に誘致した企業で、当市に東北支店を開設した。同社の事業は、「床下暖房システム」、廃熱を回収した冷暖房「次世代型高効率ヒートポンプシステム」の製造、設計施工で、省エネルギー、二酸化炭素削減効果に優れている。

同支店が施工した花巻市東和温泉や白鷹工場の床下暖房部品の製造工程などを視察した。

山形県上山市役所前（8月24日）

◎さとみの漬物講座企業組合（山形市）

7年前に山形県初の企業組合を設立。おいしい漬物はいい食材が大事という信念で、量産化によって会社を大きくすることは考えていないとのことであった。

◎山形県上山市（気候性地形療法）

上山市では、歩くことで健康を増進する「気候性地形療法」について、クアオルト（温泉保養地の意）協議会を設立するなど、2年前から本格的に取り組み、医学的な効果の検証と先達者の人材育成（市民ガイド養成）を行っている。地元温泉と地域の自然、人材、伝統文化などと連携、融合した健康保養地を目指し、市民の健康増進と落ち込んでいる観光客の誘致にも一役買っている。当市にも温泉地や高原性気候など同様の資源があるので、それらを活用し、市民の健康増進と交流人口の増加を図っていく必要を感じた。

教育民生常任委員会

小野寺昭一（委員長）、遠藤公雄（副委員長）、
髙橋悦郎、髙橋 守、古川津好、工藤 剛、渡辺義光、立花安文

公民館のあり方 徹底した話し合いで結論

・期日……8月25日～26日
・研修先……宮城県白石（しろいし）市、東松島市
・内容……子育て支援の状況、公民館（市民センター）体制の変遷について、など

◎宮城県白石市ふれあいプラザ

この施設は、未就学児と子育て中の保護者や高齢者などが集い、街中ににぎわいを創出することを目的として運営されており、地域子育て支援センターなど多彩な機能が集積されていた。

また、子育てに関連する施策や保育園・医療機関の電話番号などの概要をまとめた「子育てホっとマップ」（約30ページの手づくり冊子）を作成し、子育て中の親ごさんなど希望者に配布する取り組みを行っていた。

◎同市いきいきプラザ（リサイクルプラザ）

施設内に、古本、自転車などの交換コーナーが設けられており、古本などを自由に持ち込み、気に入ったものがあれば無料で自由に持ち帰ることができるユニークな制度がとられていた。

◎宮城県東松島市

19年4月から従来の地区公民館を市民センターとして位置付け、21年4月からは各自治組織が指定管理者となり、地域が主体となった管理を行っていた。

同市では、地域住民が主体性を持って考えることを最重要課題とし、そのために市役所と地域、あるいは地域の住民同士が話し合う場を数多く設定し、理解を深めており、20年度だけで地域の話し合いが地区平均で53回、市全体では延べ424回実施したとのことであった。

宮城県白石市いきいきプラザ（8月25日）

八起（はっき）会

髙橋 守（代表）、小笠原壽男、
小野寺昭一、三浦 侃

市民に認められる庁舎・議場を

八起会では、7月21日から24日まで、新庁舎の議場設計の参考とするため、東京都千代田区などの視察研修を実施しました。

①東京都千代田区議場

千代田区の議場のコンセプトは、新設の際に、議場の多目的化により、有効活用をイメージ付けるための目的が感じられた。しかし、議場は建設以来、議会以外の目的外使用は二度しかなかったとのことであった。議場を多目的化するため、床をフラットにして、議長席を移動できるようにしていた。傍聴席を議長席と同様に移動した目的は、多目的活用時の観客席と、議場の傍聴席を同じ位置にするための工夫ではなかったかと考えられる。

②大阪府堺市議会

堺市の議場はいわゆる円形議場で、議席の配置だけではなく、議場の形自体が円形であり、円形にこだわった設計に感じられた。議長席からの視認性は良く、全体を見渡すことが容易であった。

京都市役所前（7月23日）

③京都市会

京都市会の議場は扇形で、国会のミニチュア版といった感じだった。扇の要の位置に議長席があり、最も理想的な議場の形に思えた。しかしながら、議場内の狭さは、その理想的な形と引き換えにするには、狭すぎると感じた。扇と要の位置にこだわりすぎなければ、スペースに工夫をした良い形ができると思う。

感想

議場を、議会を開催する場所としての目的で設計するならば、現在の本市の議場と同じ設計で、何ひとつ不自由はないと思う。しかし、税金を投入している以上、その効果については、常に配慮が必要である。同じ金額を投入したとしても、市民から認められ、世間から注目を集めることのできる建物にしなければならないと思う。

無会派

米田定男
髙橋悦郎

地区公民館が地域づくりの中心

2人の日本共産党議員の視察研修について報告します。

○視察日時 8月20日

○視察先 花巻市役所まちづくり部

○視察目的 八幡平市においても合併後「協働のまちづくり事業」が積極的に展開されてきている。その中心的な役割を果たしているのが地区公民館である。市は合併後の公民館のあり方について議論してきたが、市民との合意ができないままとなっている。市民と行政による新しいまちづくりを進める中で、地区公民館のあり方が大きな課題となっていることから、先進地である花巻市を視察した。

○視察した概要 花巻市では、小学校区単位を基本に、市内27カ所に「振興センター」（八幡平市で言う地区公民館）を設置している。そこには市職員を配置し、地区内の自治公民館活動の援助を行ったり、住民票や印鑑証明書など各種証明書を発行する、いわゆる窓口業務も行ったりしている。この振興センターの最も大切な役割は、振興センター単位に地域の方たちが主体となって組織された「コミュニティー会議」が地域の個性を生かしながら、特色ある27通りの地域づくりを「協働のまちづくり」で展開していることで、その活動の中心になっていることである。

本市では今、公民館のあり方について改めて検討していくことになっているが、このような花巻市の取り組みも貴重な参考になるのではという思いがした。

12月定例会の日程について（予定）

12月定例会は、12月10日から約1週間開催する予定です。詳しい日程が決まり次第、市※議会ホームページに掲載（定例会初日のおよそ5日前）しますので、ご覧ください。また、傍聴を希望される方は、議会開会日当日、市役所3階・議会事務局までおいでください。

詳しくは、議会事務局（☎76－2111、内線1323）まで問い合わせ願います。

※ 市トップページ左側に市議会のバナー（横長の細い見出し画像）がありますので、そこをクリックしてください。